

Celvapan からチメロサルとアジュバントを除いたと発表した⁵⁴⁾。その理由は明らかにされていないが、ドイツ連邦陸軍が兵士にアジュバント添加 A(H1N1)2009<単価ワクチン>を投与することを拒否したからであるとインターネットに掲載されている⁵⁵⁾。2009年10月26日から A(H1N1)2009<単価ワクチン>接種が開始されるが、ドイツのメディアは、内務省が政府高官、兵士が接種を受ける医療機関に米国バクスター社製、それ以外には英 GSK 社製ワクチンを配備したことを暴露した。バクスター社製のワクチン方が副作用が少ないと報じられ、国民から不満の声が上がった。後日、内務省はバクスター製ワクチン (Celvapan) の発注は20万回接種分であると発表した⁵⁶⁾。2009年12月30日ドイツ連邦共和国政府は5千万回接種分の Pandemrix を発注していたが、50%をキャンセルすると発表した。価格にして2億ユーロ (260億円) であると Hartmut Schubert 氏 (ドイツ連邦共和国保健省副大臣) が記者発表。8,000万を超える人口のインフルエンザを予防するには、2,500万回接種分のワクチンで足りる。既に2,000万回接種分の Pandemrix が納入されたが、2010年1月10日、すなわち接種開始後6週間の間に実際にワクチン接種を受けたのは、推計500万~700万人 (人口のわずか5%) であったと政府の審査機関であるフランクフルト郊外にあるボーラーエーリッヒ研究所が発表した⁵⁷⁻⁵⁹⁾。Lower Saxony 州が1月1日付で16州の保健省の代表となったので、GSK と返品交渉 (契約の変更の交渉) を開始した。GSK はドイツへの A(H1N1) <単価ワクチン>納入量を約3割減らす (5,000万回接種分から3,400万回接種分に変更する)⁶⁰⁾ と発表。変更に伴う補償額は不明。

- (3) フランスでは野党と連立与党の政党が議会の調査を要請、あせりの色がみられたが、2010年1月になって展望が開けて契約破棄に成功

2009年5月30日 仏紙 Le Journal du Dimanche はサルコジ大統領がフランス全国民に A(H1N1)2009<単価ワクチン>を強制的に接種するための秘密の計画をたて、政府はその

ために10億ユーロ (1,300億円) の歳出を了承したことを暴露した⁶¹⁾。2009年7月14日、厚生労働大臣 ロゼリン バシエロ (Roselyne Bacherot-Narquin) 氏、内務大臣 ブリスオルテフュ (Brice Hortefeux) 氏、法務大臣 ミシェル アリオマリ (Michèle Alliot-Marie) 女史の3人は (1) 2009年9月から A(H1N1)2009<単価ワクチン>の集団・強制接種を秘密裏に準備したこと、(2) WHO のパンデミックレベル6宣言を口実にして、戒厳令を敷いたかどで刑事告発された⁶²⁾。

フランスではサノフィパスツール社が Humanza (サノフィパスツール社が知的所有権を有する AF03 アジュバント添加アジュバント添加 A(H1N1)2009<単価ワクチン>) を市販していた。2009年11月16日 サノフィパスツール社は同社の Panenza (アジュバント無 A(H1N1)2009<単価ワクチン>) がフランス薬務局 (French drug agency Afssaps) の認可を受けたと記者発表した⁶³⁾。

フランス政府は6,400万人の国民に対して、2回接種を前提に9,400万回接種分のワクチンを購入した。価格は8億7千万ユーロ (1,131億円) であった。しかし感染症状が軽症であること、1回接種で十分なことが明らかとなったので、10月から現在までに、500万人しか接種を受けていない。フランスは1千万回接種分を WHO に寄付することにしたので、7,900万回接種分は余剰在庫となる。その中、30万回接種分をクエートに210万ユーロ (2.7億円) で売却することで、売買契約が成立した。転売価格はフランスが購入した価格と同じである。エジプトに200万回接種分を1,400万ユーロ (18.2億円) で売却する交渉に入り、メキシコとウクライナを相手に交渉していると発表した。ドイツその他のヨーロッパ諸国との競争になっている。フランス政府が余剰ワクチンの転売先を探していることに対して、政治家と学者が国家予算の無駄使いであると攻撃。フランス社会党と連立政権の1つである新中央党 (New Centre) は議会の調査を要請した。タミフル、マスク、風評被害を合わせると、新型登場キャンペーンは20億ユーロ (2,600億円) の出費になっ